Rhinoceros®
modeling tools for designers

Rhino9 for Windows
ラボラトリーライセンス　インストール・運用ガイド



AppliCraft

株式会社アプリクラフト
2026.10.28

Rhino9 for Windows ラボラトリーライセンス インストール・運用ガイド

この度は Rhino9をご購入いただき、誠にありがとうございます。
Rhinoをインストールする前に、ラボラトリーライセンスの運用方法や
インストールの注意点について、以下よりご確認ください。

目次

運用について

ラボラトリーライセンスとは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3P

ラボラトリーライセンスの運用方法　Cloud Zoo チーム・ Rhinoアカウントとは？・・ 4P

ラボラトリーライセンスの運用方法　Zooとは？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6P

ラボラトリーライセンス　運用上の注意点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7P

インストールについて

ラボラトリーライセンス　インストール前に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8P

ラボラトリーライセンス　インストールガイド – Cloud Zoo チーム
1 - Rhinoアカウントの作成　(管理者・使用者共通)・・・・・・・・・・・・・・・・・9P

2 - チームの作成　(管理者向け)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10P

3 - メンバーを招待する（管理者向け)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12P

4 - チームへのライセンス登録　(管理者向け)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13P

5 - 招待されたチームに参加する　(使用者向け)・・・・・・・・・・・・・・・・・15P

6 - Rhinoをインストールし起動する　(管理者・使用者共通)・・・・・・・・・・ 17P

ラボラトリーライセンス　インストールガイド – Zoo
1 - Zoo をインストールする　(管理用PCでの操作)・・・・・・・・・・・・・・・・21P

2 - Zooにライセンスを登録する（管理者用PCでの操作)

Zoo オンラインバリデーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23P

Zoo オフラインバリデーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27P

3 – Rhinoをインストールし起動する　(使用者用PCでの操作)・・・・・・・・・ 31P

ラボラトリーライセンス　困った時は(各種お問い合わせ先)・・・・・・・・・・・・ 35P

ラボラトリーライセンスとは

ラボラトリーライセンスは教育機関の教室・クラスで利用することを前提としたライセンスです。教室・クラスの管理者がライセンスキーを管理・運用します。
ラボラトリーライセンスは1つにつき、30ユーザーまで同時に使用することができるライセンスです。
１本のライセンスキーをバリデーションすると、30ユーザが使用できるように展開されるという特徴があります。ライセンスキーが30本あるのではなく、30ユーザまでが使える1つのライセンスキーです。

ラボラトリーライセンスの運用方法

Rhino商用版ライセンスの認証方法が4種類あるのに対し、ラボラトリーライセンスが認証できる方法はそのうち２つ、**Zoo** と **Cloud Zoo** です。

×	スタンドアロン	特定のPC内にライセンスを置き、そのPCのみで使用
×	Cloud Zoo 個人	インターネット上にライセンスを置き、自分だけがアクセスできる
○	LAN Zoo	ローカルサーバにライセンスを置き、ネットワーク内の任意のPCから利用
○	Cloud Zoo チーム	インターネット上にチームを作成し、チームからアクセスを許された複数の人が利用

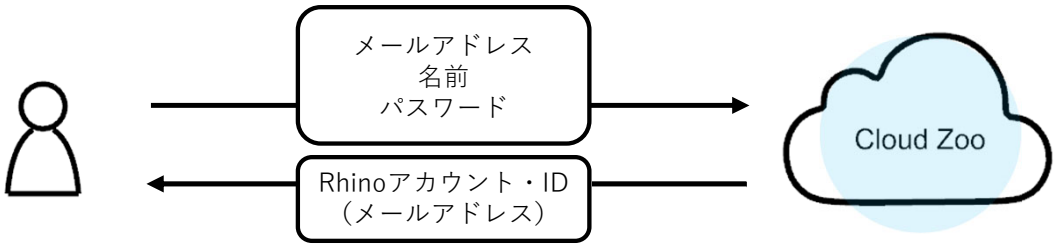
Zoo と Cloud Zoo の運用方法には以下のような違いがあります。導入する環境に合った認証方法を選択してください。ライセンス認証方法は後から変更する事もできます。また、どちらの運用方法も無償で、保守費用等はありません。

	Cloud Zoo チーム	LAN Zoo
対象	インターネット接続が可能な教育機関	セキュリティが厳しいまたは、施設内サーバーで管理したい教育機関
条件	Rhino起動時にインターネット接続が必要。	ローカルネットワーク内にZooサーバーを配置する必要がある。
メリット	インターネットさえ接続できればどこからでも Rhino を起動することができる。	インターネット接続なしで、教育機関内で管理できる。
デメリット	アカウントにログインできなくなった場合（メールアドレスの無効化、アカウント情報の紛失等）お客様自身でライセンスの削除や移動ができなくなる。	ライセンス利用時にはZooサーバが起動している必要がある。サーバーに接続できない場合 Rhino を使用できない。（30日以内であればオフラインで使用できるチェックアウト設定が可能）

ラボラトリーライセンスの運用方法　Cloud Zoo チーム・ Rhinoアカウントとは？

Cloud Zoo チームとは、クラウド上でライセンスを管理するサービスです。各種ファイルを保存するようなストレージサービスではありません。ご利用にはRhinoアカウントが必要となります。

Rhinoアカウントとは、Rhinoの開発元であるMcNeel社のサイトにユーザ情報を登録する事で、個人に発行される無償のIDです。

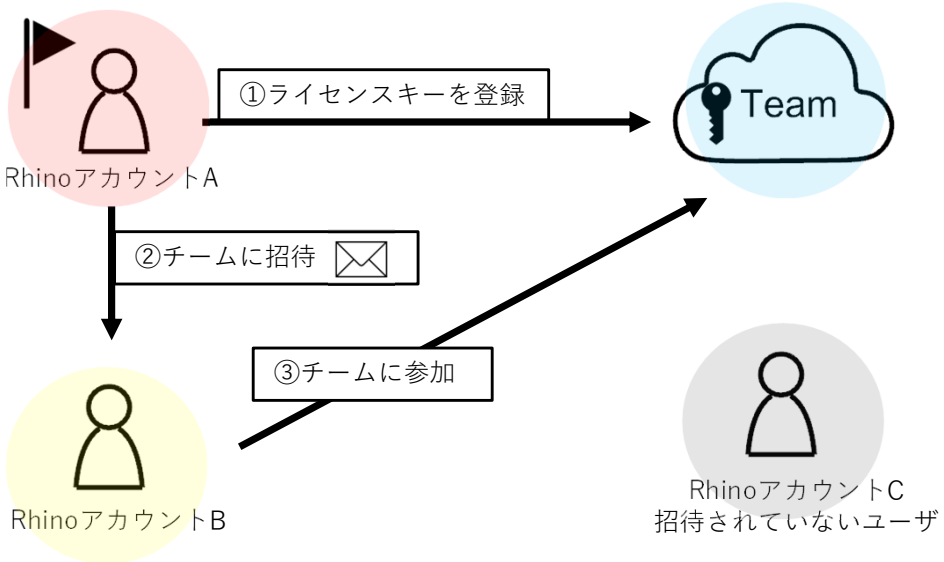


このRhinoアカウントにライセンスを紐づけて管理をする運用方法を“Cloud Zoo”と呼びます。ライセンスをクラウドで管理する事で、インターネットが繋がってさえいれば、場所を問わずにRhinoを起動できます。
しかし、このアカウント情報やライセンスキーを直接学生に伝えてしまうと、ライセンス情報の漏洩や、意図しない学生の不正使用につながる可能性があります。それを防ぐために、Cloud Zoo チームでの管理が必要となります。

Cloud Zoo チーム管理とは、複数のRhinoアカウントを取りまとめチームを作成し、チームにライセンスを付与して管理する運用方法です。

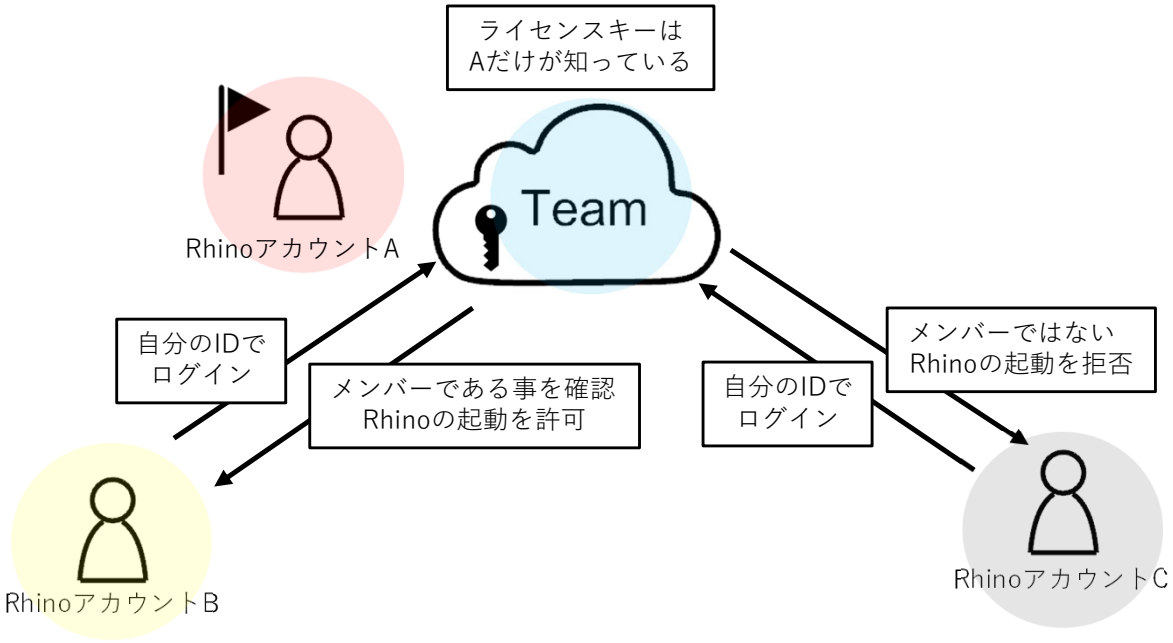


ライセンスを管理する代表者（Rhinoアカウント）を決め、代表者はチームを作成し、このチームにライセンスキーを紐付けます。
次に、ライセンスを共有させたい他のRhinoアカウントをチームに招待します。



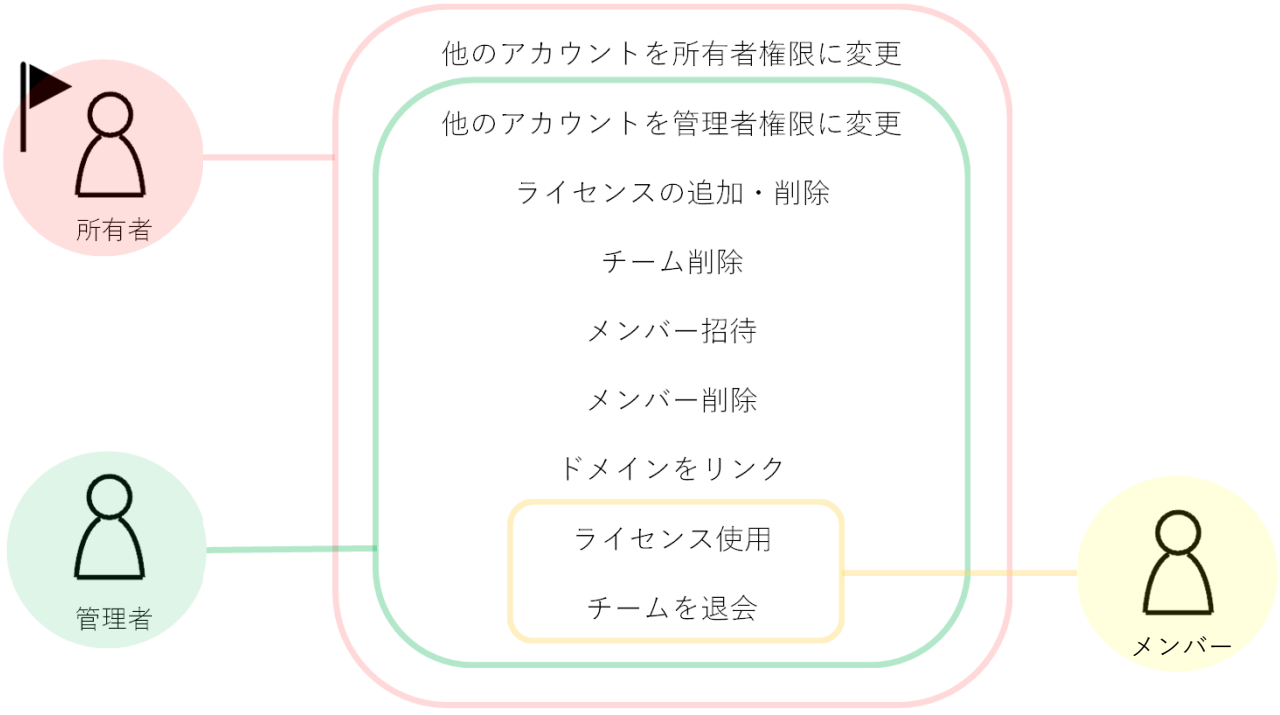
ラボラトリーライセンスの運用方法　Cloud Zoo チーム・Rhinoアカウントとは？

チームに参加したRhinoアカウントは、自分のIDでログインする事でチームの一員と見なされ、ライセンス情報を目にする事なくRhinoを起動できます。代表者以外のアカウントがライセンス情報を確認・編集することはできません。



Rhinoアカウントの権限

チームに所属するRhinoアカウントには、所有者・管理者・メンバーの3種類の権限があります。所有者はチームに対するすべての権限を持っています。管理者はライセンスの追加やメンバーの招待などチームを管理する権限を持ちます。メンバーはチームに変更を加える権限を持ちません。チームを作成する代表者を“所有者“に、他にもクラスを管理する方がいる場合は”管理者”または“所有者“に、学生を“メンバー”にして運用いただくのがお勧めです。



ラボラトリーライセンスの運用方法　Zooとは？

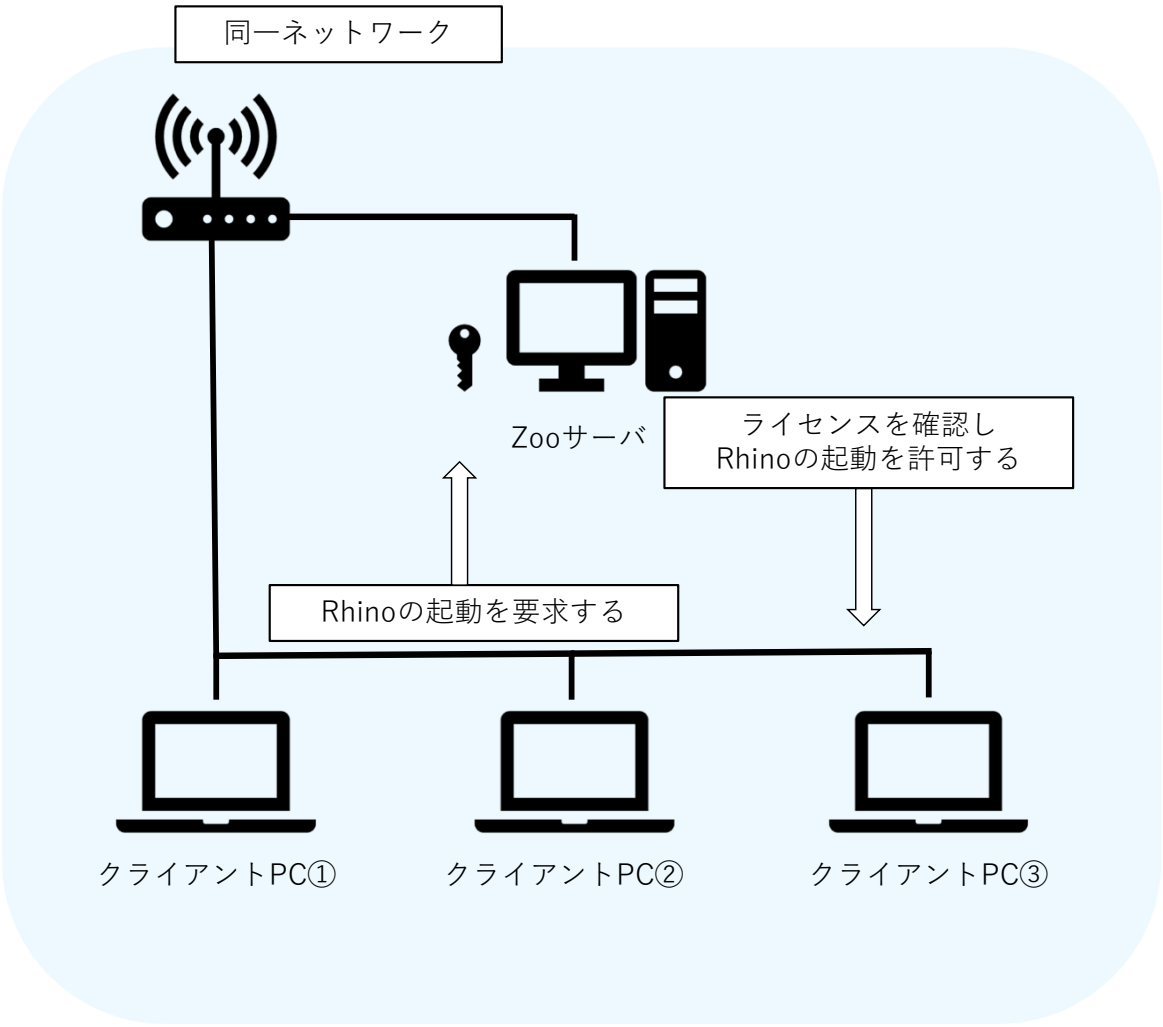
Zooとは、ライセンス管理ツール“Zoo”を用いて、ローカルネットワーク内でライセンスを管理する運用方法です。

ライセンス管理ツール“Zoo” とは、Rhinoのライセンスキーを管理するために無償で提供されているアプリケーションです。 Zooにライセンスキーを登録する事で、同じローカルネットワーク内にある他のPCにライセンスを払い出すことができます。 Zooのシステム要件は以下の通りです。

- Microsoftが現行でサポートしているWindowsまたは Windows Server（すべてのWindows Updateを適用済みであること）
- TCP/IP が構成されたネットワーク接続
- TCPポート80での通信

システム要件をもとにZooをインストールするPC(Zooサーバ)を選定します。
※ライセンスを利用する際はZooサービスが動いている必要がありますので、授業中に電源が入っていて、学生が操作することのできない講師用のPCなどにZooをインストールする事をお勧めします。

インストールしたZooにライセンスキーを登録し、Rhino側ではZooサーバのIPアドレスを指定することで、学生にライセンスキーを伝えることなくRhinoを起動できます。



ラボラトリーライセンス　運用上の注意点

ラボラトリーライセンスを含むRhinoのライセンスは1度に1か所でのみバリデーションが可能です。
ラボラトリーライセンスは30台が同時に使用できるライセンスですが、30回バリデーションできるライセンスではありません。2台目にバリデーションする際、既にライセンスが使用されています。というエラーが表示されます。

そのため、ラボラトリーライセンスはスタンドアロン認証やCloudZoo(個人)ではご利用いただけません。

ラボラトリーライセンスを運用する際は必ず、LAN Zoo、CloudZooチーム　のどちらかで認証を行ってください。

ラボラトリーライセンス　インストール前に

インストール作業開始前に以下をご確認ください。

ライセンスキーのご確認
ライセンス証書（紙）または電子メールにライセンスキー（RH で始まる英数字)を記載しています。ライセンスキーはライセンス認証の際に使用します。

Rhino9 システム要件

ハードウェア:
64ビットのIntel、AMD、またはARMプロセッサ
8GB （RAM）以上のメモリを推奨
5GBのディスク空き容量
OpenGL 4.1対応のビデオカードを推奨
4GB以上のビデオカードメモリを推奨
スクロールホイールのある複数ボタンのマウスを推奨
オプションで SpaceNavigator
オプションでBoot Campを搭載したApple Intelハードウェア
(Boot CampはApple Silicon M1のMacではサポートされていません。)

対応 OS:
Windows 11

対応していないOS:
Windows 10およびそれ以前のもの
Windows Server（すべてのバージョン）
Apple Silicon M1のMacのBoot Camp
Linux

インターネット接続:
ダウンロード
ライセンスのバリデーション
Rhino アカウント使用時
- McNeelフォーラムのテクニカルサポート
- Cloud Zoo によるライセンス管理

Cloud Zoo チームを利用する方は9Pのインストールガイドへ
Zooを利用する方は21Pのインストールガイドへ　進んでください。

ラボラトリーライセンス　インストールガイド – Cloud Zoo チーム

ここからはCloud Zoo チームで運用する場合のインストール手順を説明しています。
Zooでの設定をご希望の場合は、この手順をスキップして21Pへ進んでください。

Cloud Zoo チームの設定は以下のステップで進めていきます。

1 - Rhinoアカウントの作成　（管理者・使用者共通）
2 - チームの作成　（管理者向け）
3 -メンバーを招待する　（管理者向け）
4 -チームへのライセンス登録　（管理者向け）
5 - 招待されたチームに参加する　（使用者向け）
6 - Rhinoをインストールし起動する　（管理者・使用者共通）

1 - Rhinoアカウントの作成　　（管理者・使用者共通）

① https://accounts.rhino3d.com/ にアクセスします。

②「新規アカウントを作成」を選択します。



③ログイン方法を選択します。
メール認証でログインするか、Googleアカウントと連携してログインをするか選択できます。ログイン方法の違いやログイン手順についてはこちらをご覧ください。

Googleアカウントと連携させる場合は“次を使用して続行：Google”をクリックし、連携させるアカウントを選択します。
メール認証でログインする場合は、必要項目を入力し“新規アカウントを作成”をクリックします。



2 - チームの作成　（管理者向け）

①Rhino アカウントにログインし、マイアカウントから「チーム」を選択します。



②チーム画面から「新規チーム」ボタンをクリックします。

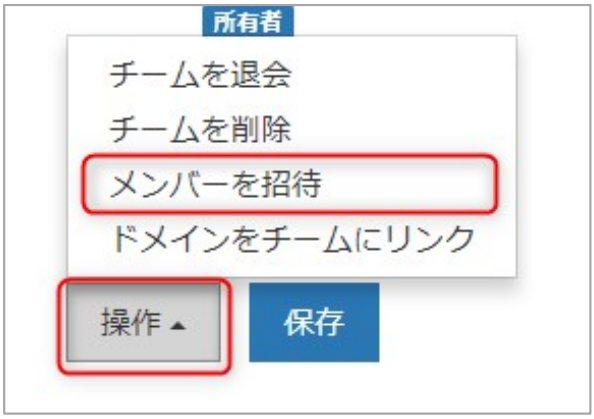


③チームが作成されました



3 - メンバーを招待する　（管理者向け）

④同じ“チーム”画面の右下にある「操作」から、「メンバーを招待」を選択します。



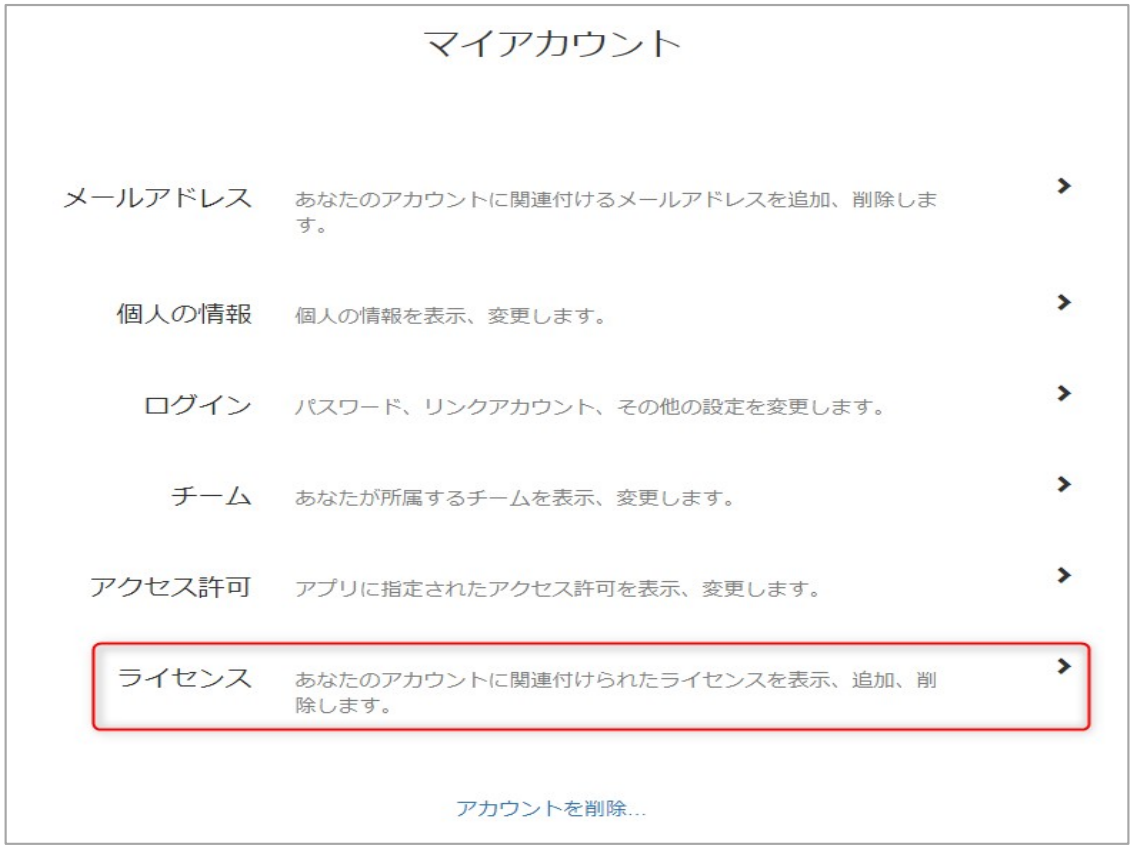
⑤招待状の言語を選択、招待メンバーのメールアドレスを入力し（複数入力可）、「送信」ボタンを押します。



⑥手順⑦で入力したメールアドレスに、招待メールが送信されます。
招待メールを開封し、チームへ参加する手順については15P以降をご確認ください。

4 - チームへのライセンス登録　　（管理者向け）

①マイアカウントから「ライセンス」を選択します。



②ライセンスを追加するチーム名をクリックします。



③「ライセンスを追加」ボタンを押します。



④ライセンスの追加場所がチーム名になっていることを確認、ライセンスキーを入力、「ライセンスを追加」ボタンをクリックします。 複数ライセンスがある場合は、同様に登録を行います。



以上でチームへのライセンス登録は完了です。
チーム削除時の注意：
チームにライセンスを登録したままの状態でチームを削除した場合、チームに登録してあるライセンスが使用できなくなります。
チームを削除する場合は、かならずライセンスを解除したのちに実行ください。

5 - 招待されたチームに参加する　（使用者向け）

①チーム管理者から届いた招待メールを開封し、本文にある「この招待を受諾するには…」から始まる青い文章をクリックします。



※メールが確認できない場合
招待メールはRhinoの開発元であるMcNeel社のメールアカウントから送信されます。
メールの受信を確認できない場合は迷惑メールBoxも併せてご確認ください。

②ログイン画面が表示されたら、作成したRhinoアカウントでログインします。
※ログイン済みの場合、この画面はスキップされます。手順③へ進みます。



③ Rhinoアカウントログインページが表示される場合はログインします。ログインすると“チームに参加”ページが表示されますので、“チームに参加”ボタンをクリックします。



④“チームへの参加が正常に行われました”と表示されたらチームへの参加は完了です。



※Rhinoアカウントを複数持っている場合

Rhinoアカウントを複数持っている方は、チームに参加しようとしているRhinoアカウントが正しいことを確認してください。違うアカウントだった場合は**“**ではありませんか？アカウントを切り替え”**のボタンをクリックして、所属する組織のメールアドレスを使ったRhinoアカウントにログインしなおします。



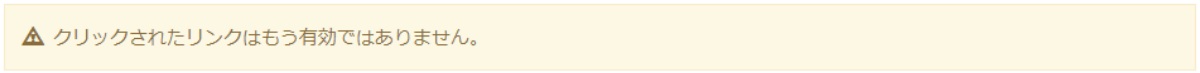
※ログインの際“Rhino アカウントが見つかりませんでした”と表示される場合

入力したメールアドレスに誤りがないか確認します。誤りがない場合、入力されたメールアドレスではまだRhinoアカウントが作成されていません。9Pを参考にアカウントを作成してください。



※有効期限切れのエラーが表示される場合

招待メールのリンクは一定期間が経過すると無効化されます。エラーが表示された場合は、チーム管理者に連絡をとり招待メールを再送してもらいます。



6 - Rhinoをインストールし起動する　（管理者・使用者共通）

①以下のリンクから最新のRhinoインストーラをダウンロードします。
http://www.applicraft.com/rhino-download/

②ダウンロードしたインストールプログラムをダブルクリックします。



③「今すぐインストール」を選択、または  をクリックします。



インストール先を指定したい場合は、 アイコンからインストールします。

【推奨】初期設定では、インストール先は“C:¥Program Files¥Rhino 9”となります。

インストール先を変更する場合：インストールフォルダの欄に指定したいフォルダパスを入力します。

アイコンをクリックした場合の画面。



インストール中の画面。



④完了したら「閉じる」を選択します。



⑤インストール完了後、デスクトップにRhinoアイコンが表示されるので、アイコンをダブルクリックし、Rhino9 を起動します。
使用許諾契約書・プライバシーポリシーの**同意ボタンにチェック**を入れます。
Rhinoアカウントに設定した自身の**メールアドレスを入力**し**続行**をクリックします。



⑥「見つかりました！」の画面が表示されたら、ログイン方法のボタンをクリックします。



⑦ブラウザが開き、Rhinoアカウントでのログインを求められます。
自身の設定したパスワードでログイン後、Rhinoの使用が可能になります。



ラボラトリーライセンス　インストールガイド – Zoo

ここからは Zoo で運用する場合のインストール手順を説明しています。
Cloud Zoo での設定をご希望の場合は、この手順をスキップして9Pへ進んでください。

Zoo の設定は以下のステップで進めていきます。

1 – Zoo をインストールする　（管理者用PCでの操作）
2 – Zooにライセンスを登録する　（管理者用PCでの操作）
3 – Rhinoをインストールする　（使用者用PCでの操作）

Zooをインストールする前に
Zoo は、Rhino と同じネットワーク上に所属する「Windows PC1 台」に設定します。
インストール前に以下をご確認ください。

※ ファイアウォールで TCP ポート 80 が開かれていることを確認してください。
※ Microsoftが現行でサポートしているWindowsまたはWindows Serverで
すべてのWindows Updateを適用してください。
※ライセンスを利用する際はZooサービスが動いている必要がありますので、授業中に電源が入っていて、学生が操作することのできない講師用のPCなどにZooをインストールする事をお勧めします。
※各種インストーラをダウンロードする際Rhinoアカウントへのログインが必要になります。アカウントの作成方法は9Pの[1-Rhinoアカウントの作成]を参考ください。

1 - Zoo をインストールする　（管理者用PCでの操作）

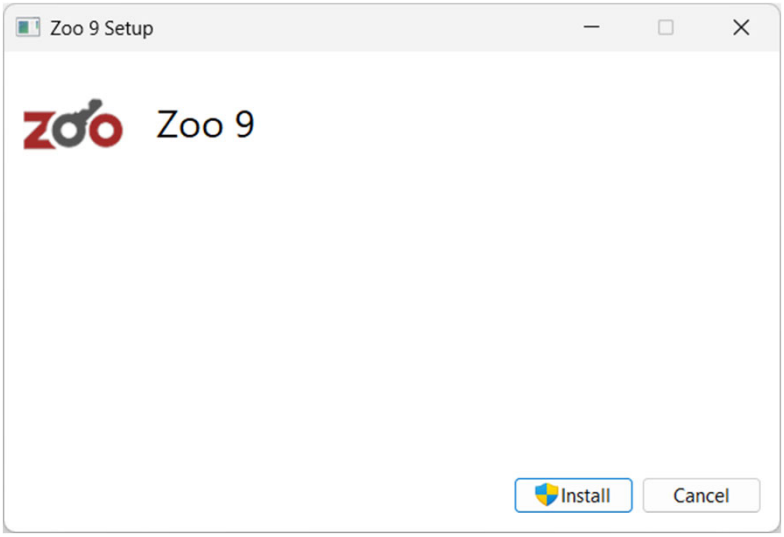
Zoo9をインストールします。以前のバージョンのZooをインストール済みの場合も、Zooを終了した上で以下の手順で最新バージョンのZooをインストールしてください。既に最新バージョンのZooがインストールされている場合、この手順はスキップして**2 – Zooにライセンスを登録する**へ進みます。

①Zoo9 のインストールプログラムをダウンロードします。
https://www.rhino3d.com/download/zoo/latest/
こちらのページで、メールアドレスを入力した後、「次へ」をクリックするとダウンロードが開始されます。（インストールプログラムは、PC に保存してください）

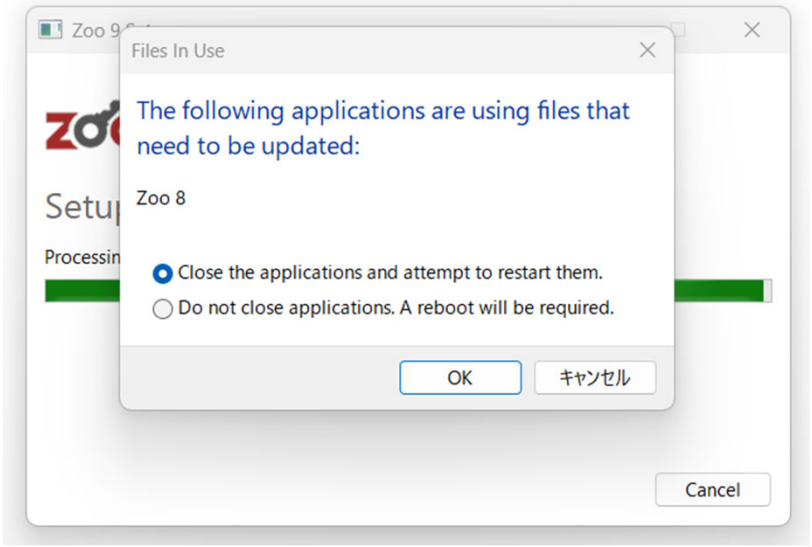
②ダウンロードしたファイルをダブルクリックして、インストールプログラムを起動します。



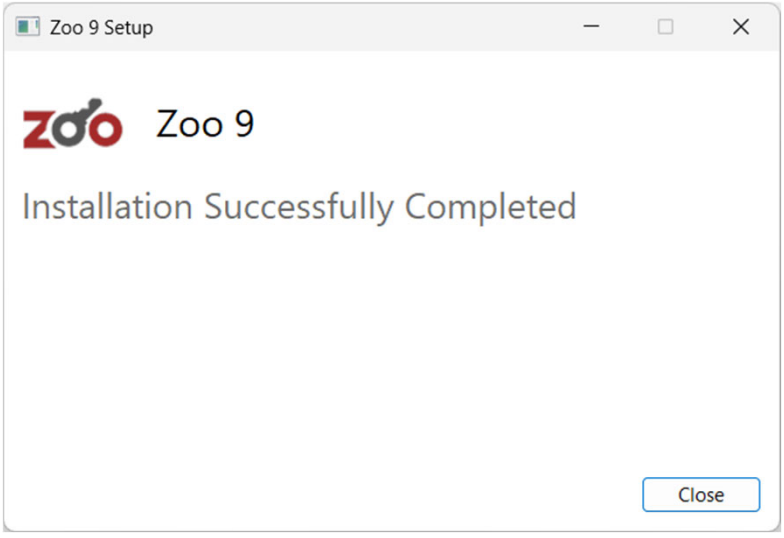
③Install をクリックし、Zoo9 のインストールを開始します。



④以下の画面が表示される場合はOKをクリックします。



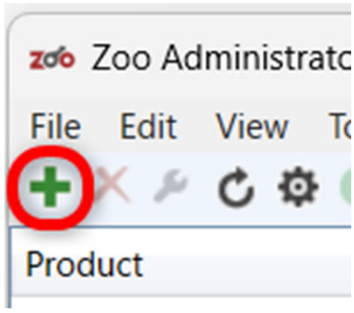
⑤インストールが完了したら Close をクリックします。



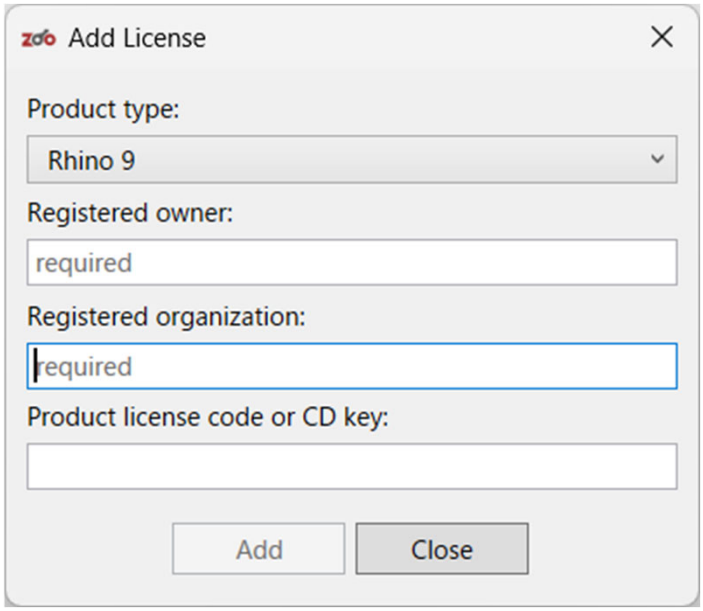
2 - Zooにライセンスを登録する　オンラインバリデーション　（管理者用PCでの操作）

①Zoo9 を起動します。Windows の［スタート］から「Zoo 9」をクリックする事で起動できます。

②Zoo9 のプラスマークのアイコンをクリックします。

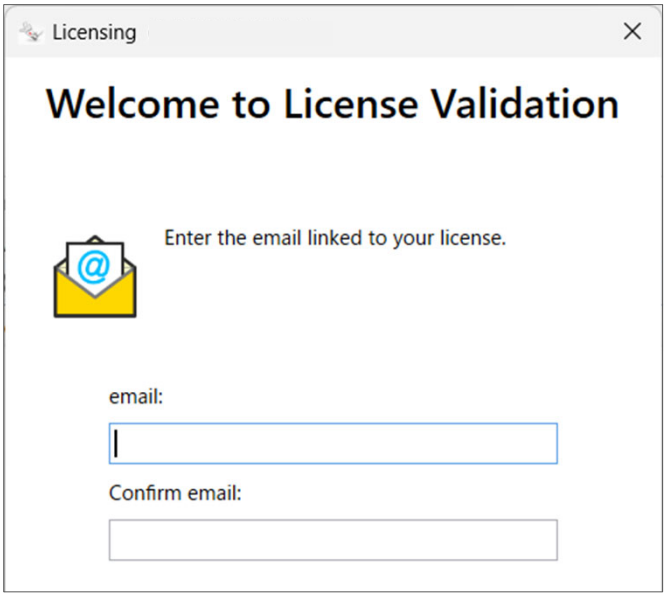


③Add License 画面が表示されます。
ドロップダウンリストより、ライセンスを登録する製品を選択し、名前、組織名、ライセンスキーを入力し、［Add］をクリックします。



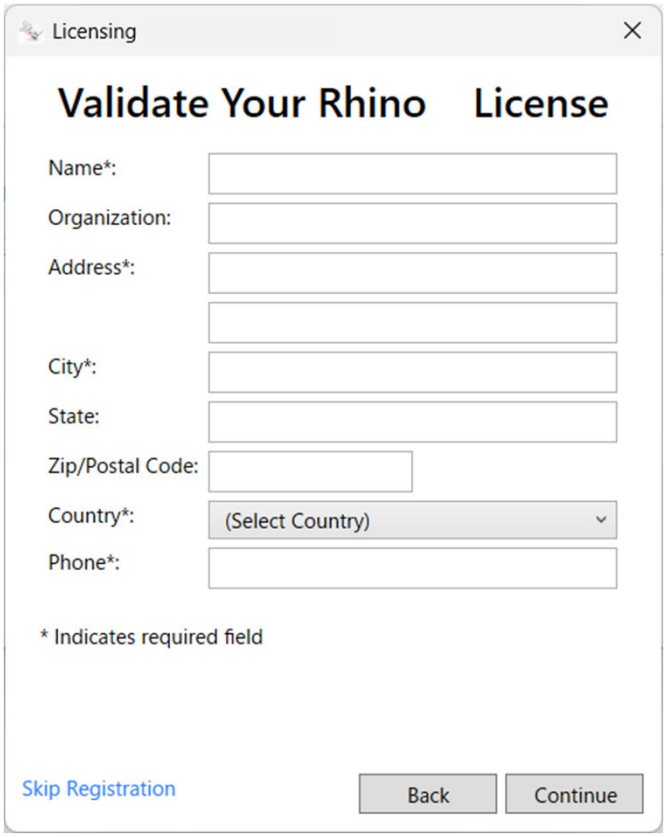
※バリデーションには必ず購入した企業・団体・教育機関の情報をご利用ください。
※プラグイン製品の場合も同様に選択・追加します。

④メールアドレスの入力画面が表示されたら、購入した企業・団体・教育機関の管理用メールアドレスを入力します。
※このアドレスはZooの移設や、再度バリデーションを行う際に入力を求められます。

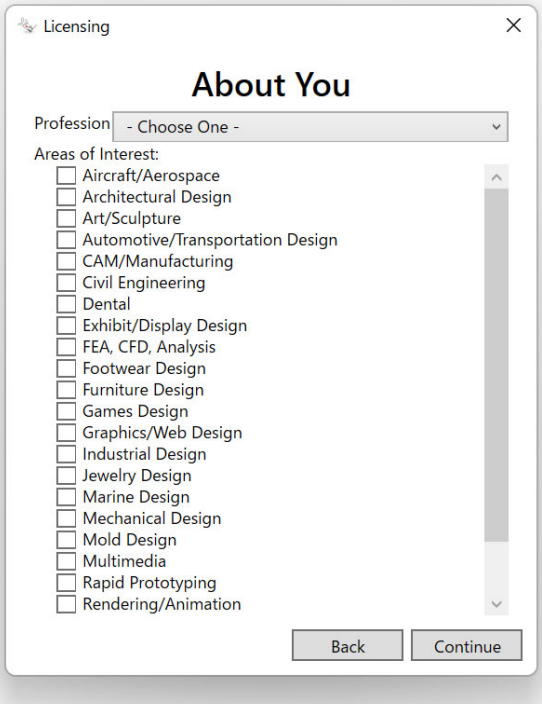


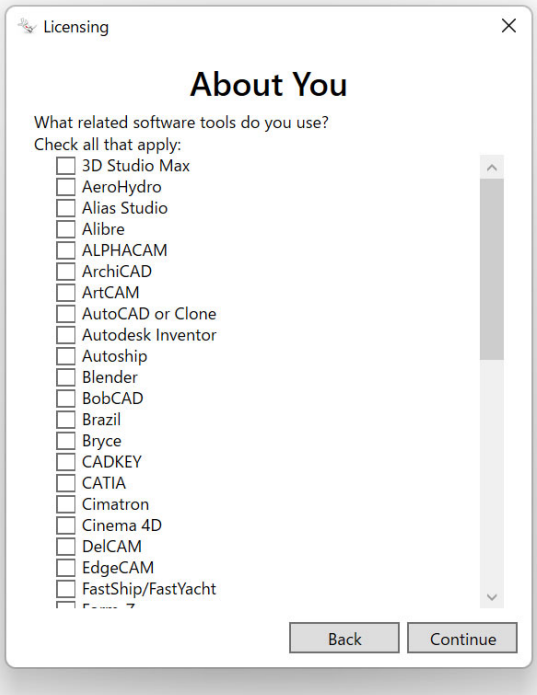
※**オフライン環境**、またはセキュリティで一部WEBページへのアクセスが制限されている場合、メールアドレス入力後に“**サーバへの接続エラー**”が表示されます。その場合は**27P オフラインバリデーションの項目に進んでください。**

⑤ユーザ情報を入力してContinueで次に進みます。



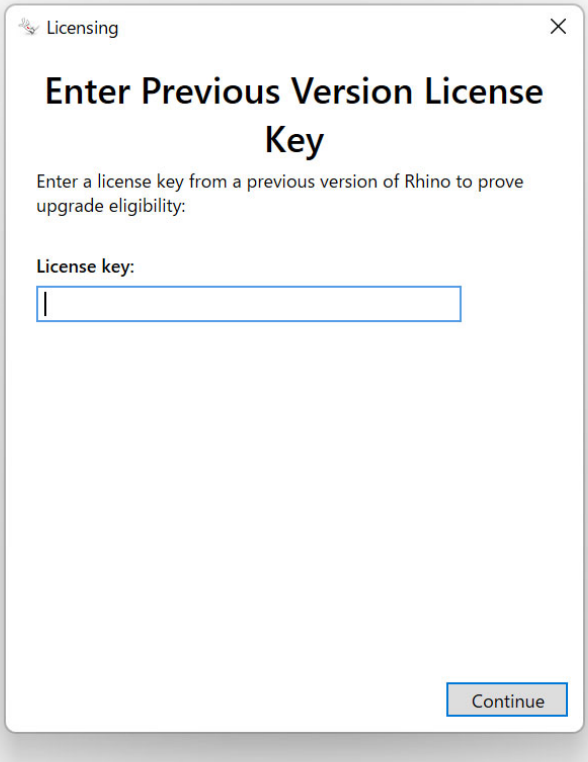
⑥「About You」の画面が表示されたらContinueで次に進みます。



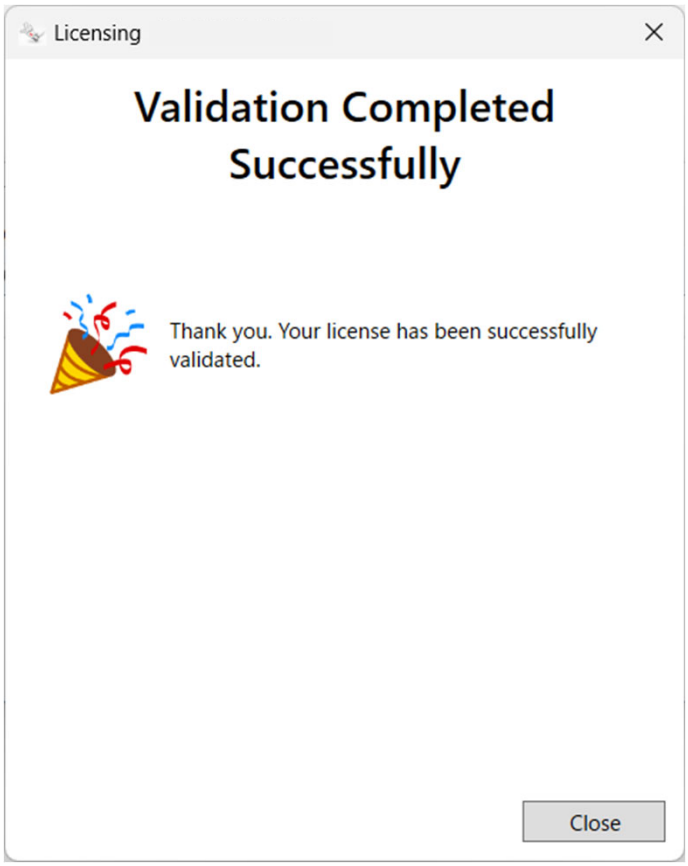


※「Enter Previous Version License Key」の画面が表示された場合

アップグレードライセンスの場合、アップグレード元となる以前の製品のライセンスキーを確認されます。この画面が表示されたら以前のバージョンのライセンスキーを入力します。アップグレード元ライセンスの認証に利用したメールアドレスと異なる場合エラーが表示される場合があります。同じメールアドレスをご利用ください。



⑦“Successfully”が表示されたらライセンスの追加は完了です。“Close”ボタンをクリックし画面を終了します。

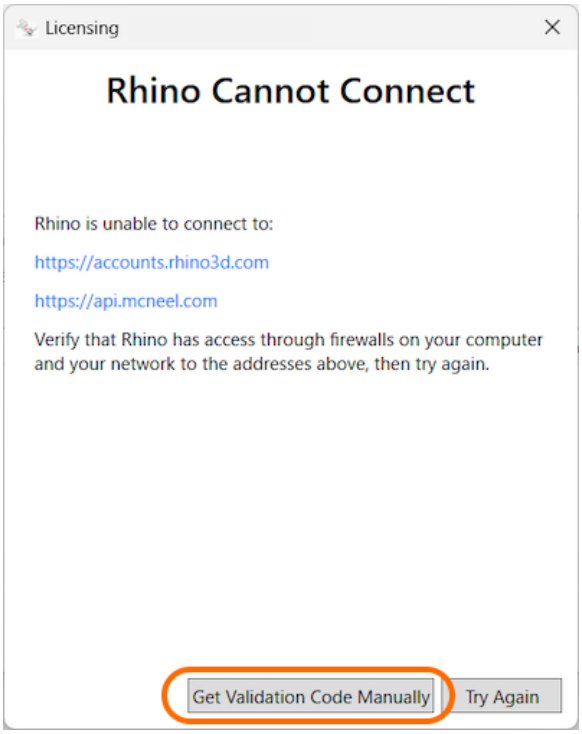


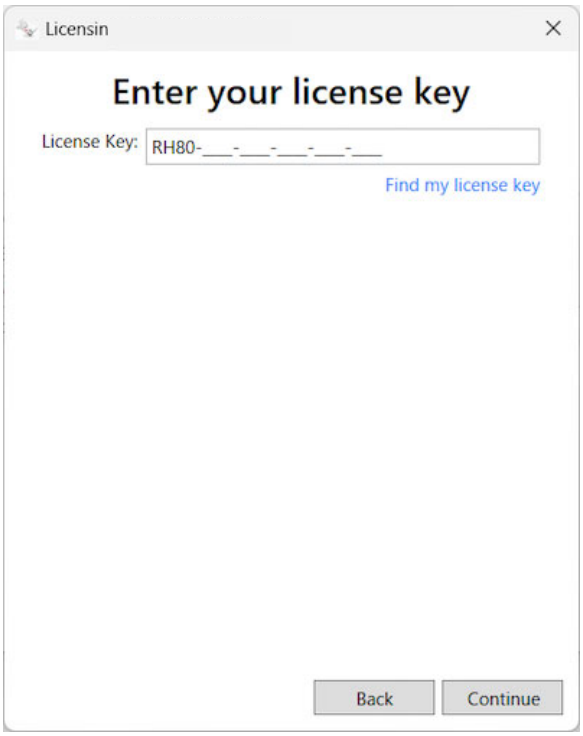
これでZooへのライセンス登録は完了です。

Zoo オフラインバリデーション - 1 -

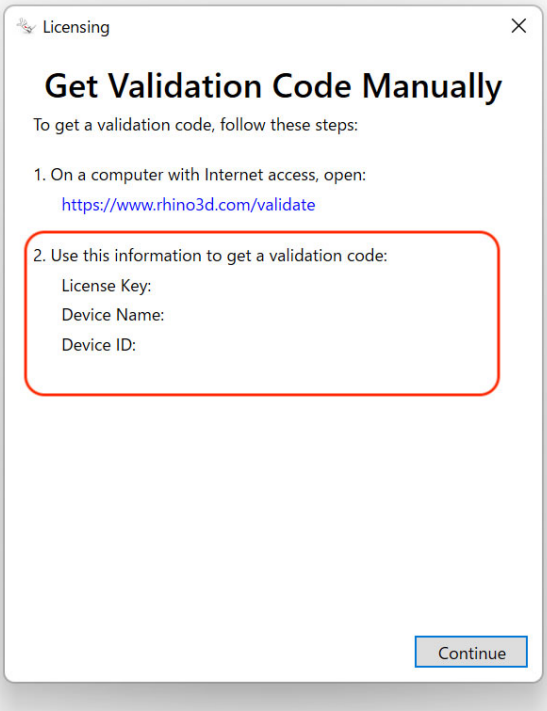
オフライン環境下にあるPCでバリデーションを試した場合、メールアドレス入力後にサーバへの接続エラーが表示されます。
このエラーが表示された場合は以下の手順に沿ってオフラインバリデーションを試します。**オンラインでのバリデーションが成功している方は、この手順をスキップして31Pの3 – Rhinoをインストールするに進みます。**

①接続エラー画面内の “Get Validation Code Manually”をクリックします。ライセンスキーを入力し“continue”で次に進み “Get Validation Code Manually”を再度クリックします。





②表示されたデバイス情報を控えます。控え終わったらContinueをクリックします。



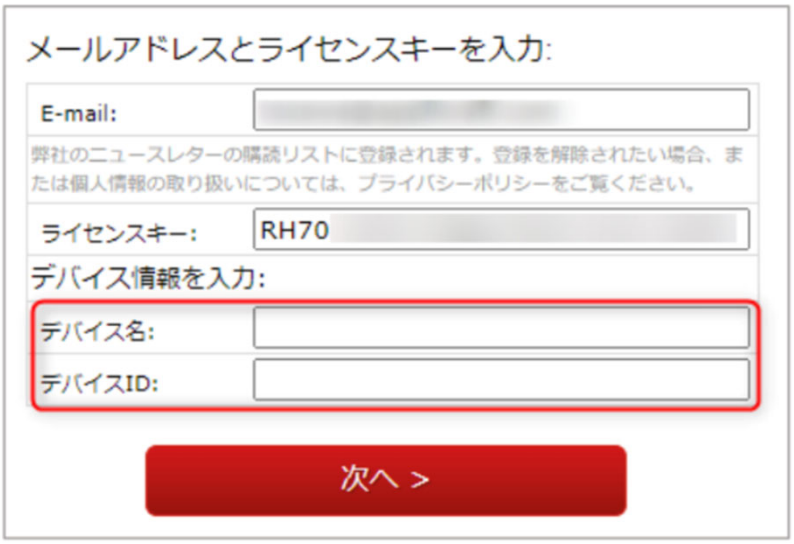
Zoo オフラインバリデーション - 2 -

③**ネットワークにつながっている端末**から以下の URL へアクセスします。
https://www.rhino3d.com/validate/

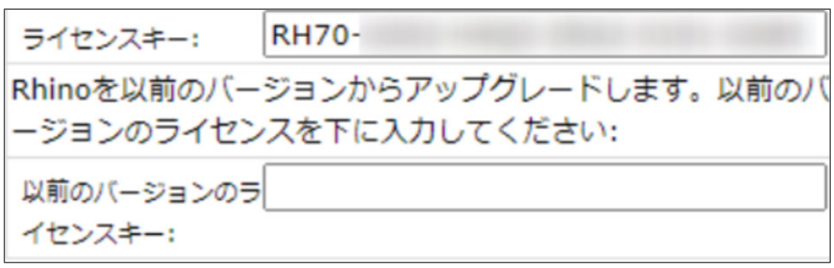
④表示された画面に沿って、メールアドレスとライセンスキーを入力し“次へ”をクリックします。



⑤手順②で確認したデバイス情報を入力し、次に進みます。



※アップグレードライセンスだった場合、ここでアップグレード元のライセンスキーを確認される場合があります。その場合は以前のバージョンのライセンスキーを入力してください。前回と同じメールアドレスをバリデーションにご利用ください。

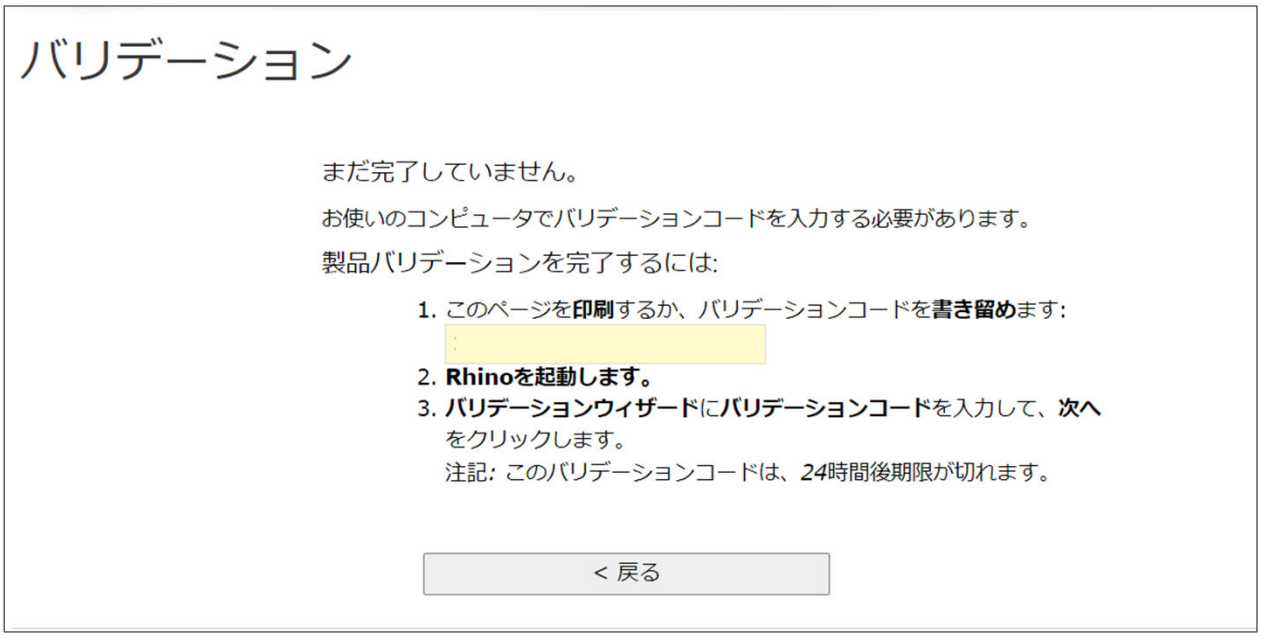


Zoo オフラインバリデーション - 3 -

⑥ユーザ情報を入力して次に進みます。

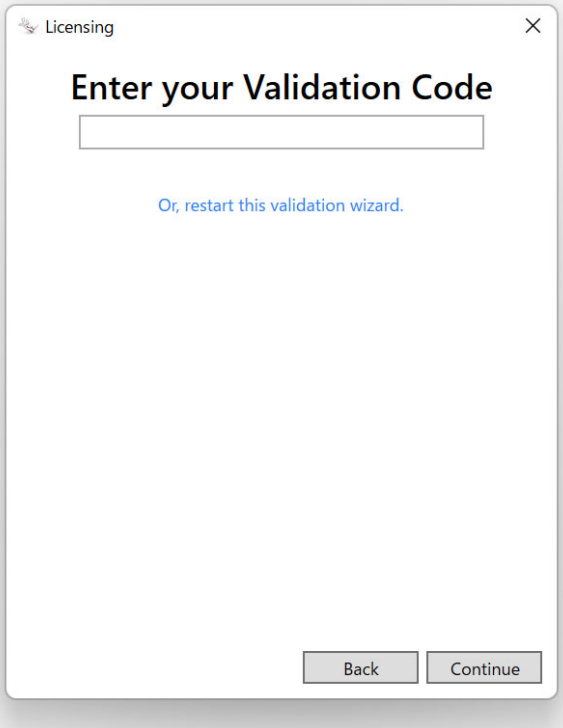


⑦表示されたバリデーションコード（黄色部分）を控えます。

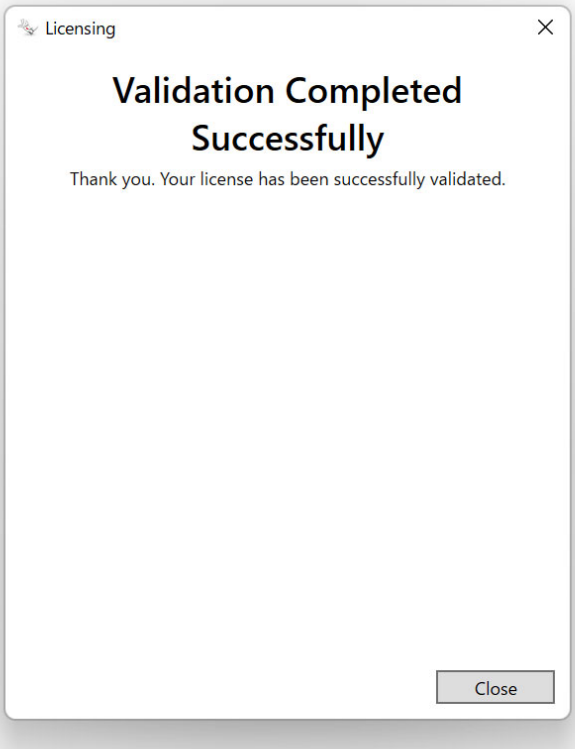


Zoo オフラインバリデーション - 4 -

⑧Zooがインストールされ ているPCに戻り、手順⑦のバリデーションコードを入力します。



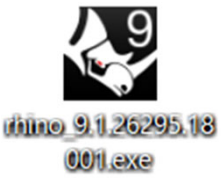
これでオフラインでのバリデーションは完了です。



3 – Rhinoをインストールする　（使用者用PCでの操作）

①以下のリンクから最新のRhinoインストーラをダウンロードします。
http://www.applicraft.com/rhino-download/

②ダウンロードしたインストールプログラムをダブルクリックします。



③「今すぐインストール」を選択、または  をクリックします。



インストール先を指定したい場合は、 アイコンからインストールします。

【推奨】初期設定では、インストール先は“C:¥Program Files¥Rhino 9”となります。

インストール先を変更する場合：インストールフォルダの欄に指定したいフォルダパスを入力します。

アイコンをクリックした場合の画面。



インストール中の画面。



④完了したら「閉じる」を選択します。

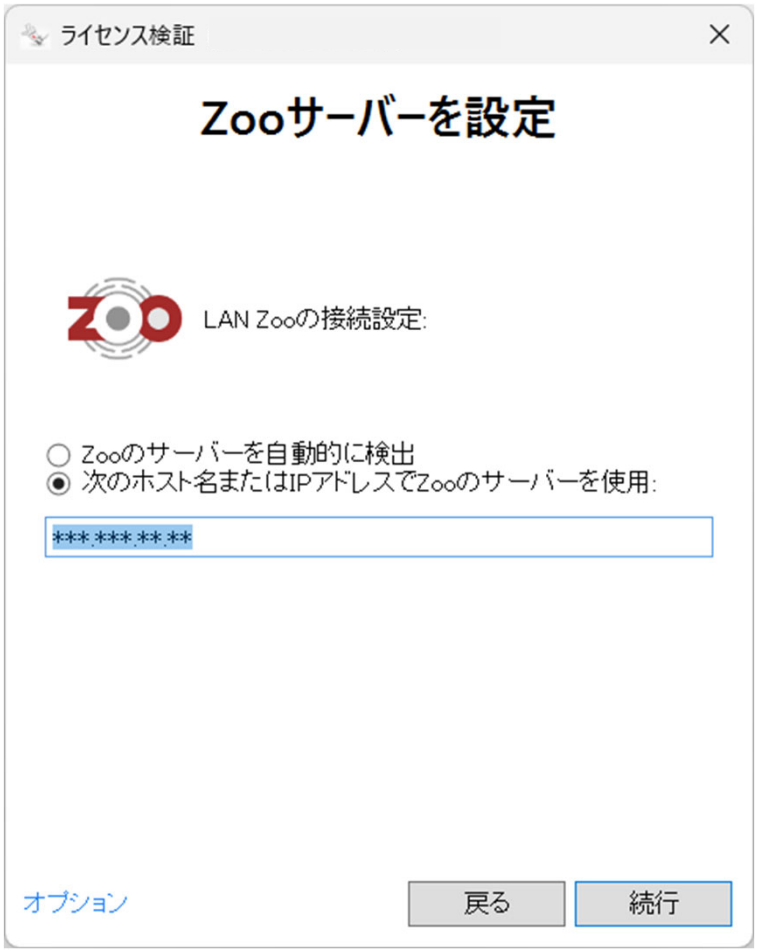


⑤インストール完了後、デスクトップにRhinoアイコンが表示されるので、アイコンをダブルクリックし、Rhino を起動します。
使用許諾契約書・プライバシーポリシーの**同意ボタンにチェック**を入れます。
左下の**オプション**をクリックし、**LAN Zooを使用**をクリックします。





⑥Zoo がインストールされている「コンピューター名」または「IP アドレス」を入力し、続行をクリックします。



接続が完了すると Rhinoの使用が可能になります。

ラボラトリーライセンス　- 困った時は(各種お問い合わせ先) -

Rhinoceros に関するお問い合わせ・ご要望などは E-mail にて承ります。

メールアドレス

技術的なお問い合わせ	support@rhino3d.co.jp
その他のお問い合わせ	info@rhino3d.co.jp

ホームページ

Rhinoceros よくある質問	https://www.applicraft.com/qanda/rhinoceros/
Rhino 開発元ウィキ	https://wiki.mcneel.com/ja/homepage
アプリクラフトに関して	https://www.applicraft.com/